



新・韓国現代史

文京洙 (ムン・ギョンス)

210781095 中尾 堇

韓国併合後の
朝鮮



戦時下の動員と被害

- 名前を日本的なものに変える
創氏改名
 - 労働のために強制的に連行
される強制連行
 - ときには脅迫や暴力をともなう
慰安婦連行
- 心理的・肉体的犠牲による被害
- 原爆にて広島で5万人(うち3万人が死亡)、長崎で2万人(うち1万人が死亡)の朝鮮人が被爆
 - その他、沖縄戦や東京大空襲に巻き込まれた者もいる

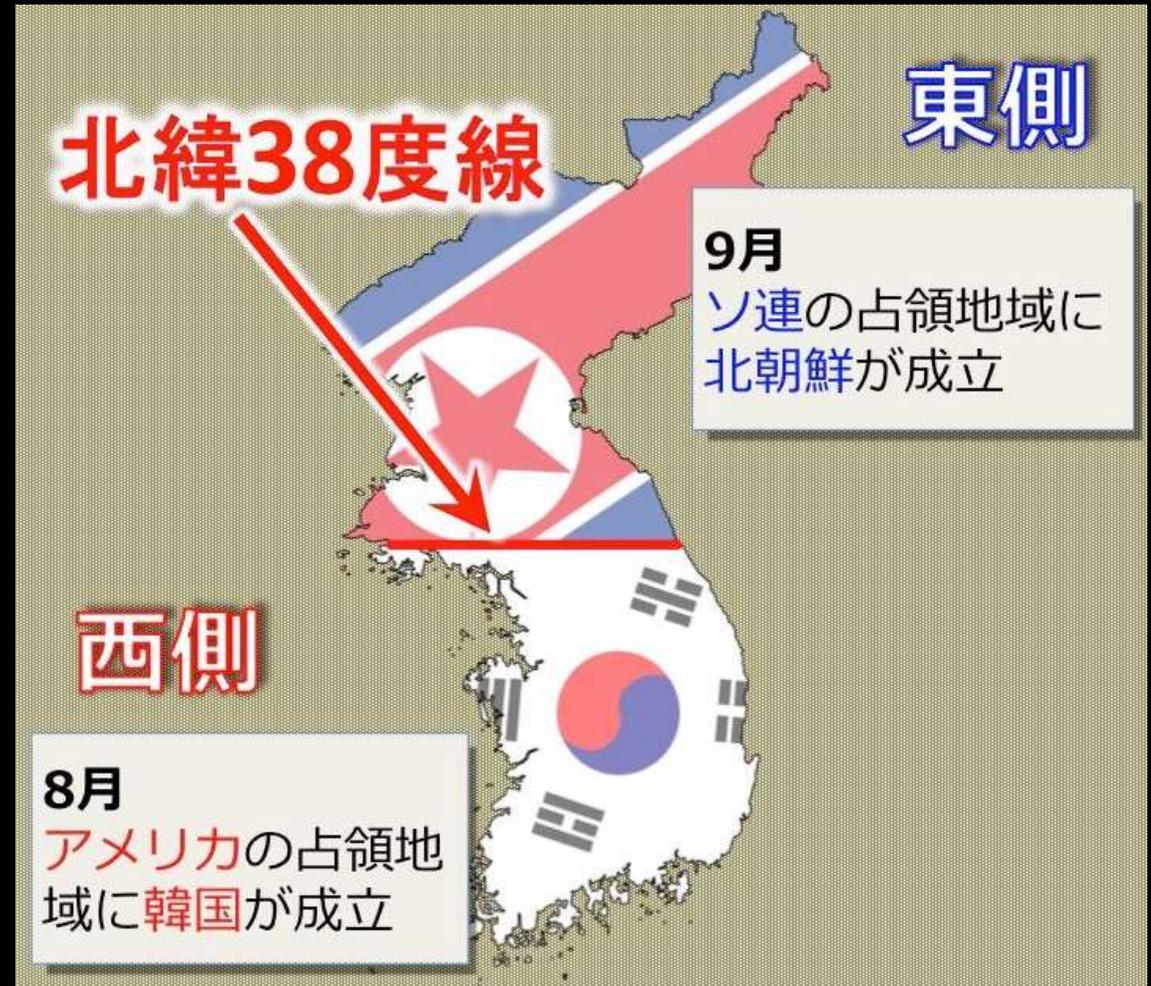


戦後の朝鮮

- 1945年の第二次世界大戦の終結とともに日本から解放
- その後ソ連とアメリカが朝鮮半島の統治に乗り出し、北緯38度線を境に、北側をソ連が、南側をアメリカが占領することとなった
- 1948年8月、李承晩(イ・スンマン)が宣言を行い、38度線より南側に大韓民国が成立
- 対抗するように同年9月、金日成(キム・イルソン)が北朝鮮の成立を宣言

→ 朝鮮戦争勃発

1953年、朝鮮戦争休戦協定にて休戦



民主化へと
向かう韓国



朝鮮戦争休戦後の韓国

- 李承晩（イ・スンマン）が政権を担うが、強権政治に民衆が反発、騒乱状態となりハワイに**亡命**
- クーデターののち政権を掌握した朴正熙（パク・チョンヒ）は、日韓基本条約を締結、重化学工業化を進め『漢江の奇跡』と呼ばれるほどの経済発展を成し遂げ、一気に経済大国の仲間入りを果たすも、1979年に部下に**暗殺**される。



強権政治

李承晩

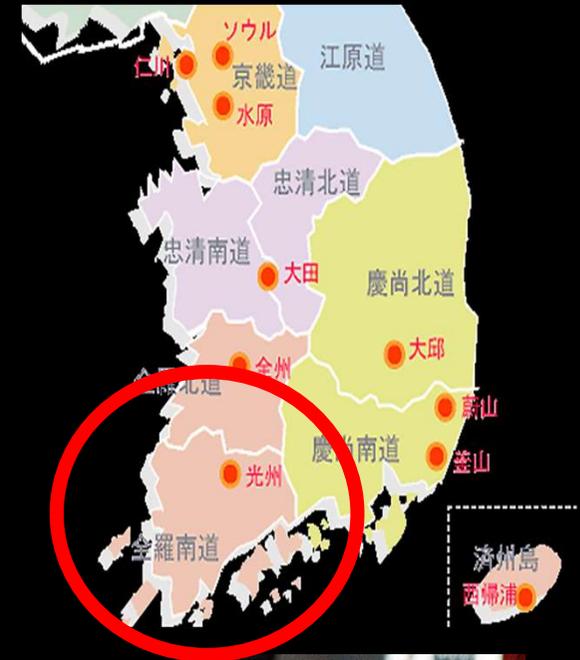


独裁政治

朴正熙

光州事件

- その後、軍隊出身の全斗煥（チョン・ドゥファン）が政権を握り、民主化デモに対してさらなる強硬な対応を取り弾圧することとなり、国民の自由を奪還
- 有力な政治家であった全羅南道出身である金大中（キム・デジュン）の逮捕がきっかけとなり、全斗煥はさらに光州市の市民や学生の反感を買うこととなった
- ついに1980年5月18日、光州市で韓国軍と学生・市民が衝突



→ **光州事件** となる



← 全斗煥



金大中 →

光州事件

- 市民たちは鉄パイプや火炎瓶などを使い警察署を占領、政府軍の声明のみを伝えたMBC放送の建物を全焼などによりデモを進行
- それに対し市外への電話や列車、高速バスなどすべてのルートを通断ち、光州は完全に軍によって閉鎖された。テレビは光州市民を暴徒呼ばわりし、この騒乱をスパイの策動によるものとし、反政府運動への見せしめとして光州を打ちのめそうとした



民間人168人

軍人23人 負傷者4782人

警察4人 行方不明者406人

の犠牲者をだし、政府の弾圧により収束

全羅南道道庁前での市民集会

その後、1980年9月に全斗煥は大統領に就任し、引き続き独裁政治を推進

六月民主化 抗争

- 1987年1月14日、民主化デモを行なって逮捕された大学生(パク・ジョン Chol 氏)が警察の取り調べ中に死亡する事件が発生
- 警察の拷問による窒息死だったが、警察はこの事実を隠蔽
- しかし、検死医など事件に関わった人々が「この事実を闇に葬るまい」という想いで世間に公表
- この“警察の拷問による窒息死”であるという事実は「なぜ罪もない若者が死ななければならないのか？」という疑問を国民に投げかけ、打倒・独裁政権のムードが高まって全国各地で大規模なデモが多発

→ **六月民主化抗争**



民主化の達成

- 翌年1988年に韓国でのオリンピック開催が予定されており、軍介入による流血事態が起これば他国開催に変更になるおそれがあったため、政府は何としてもこの抗争を穏やかに終わらせる必要があった
- 1987年6月29日、政府により直選制改憲、拘束者釈放、言論の自由の補償、地方自治制の実施、大学の自立化、そして反体制運動家の赦免・復権などを盛り込んだ『民主化宣言』が発表され、六月民主化抗争は収束

→ 民主化成立！

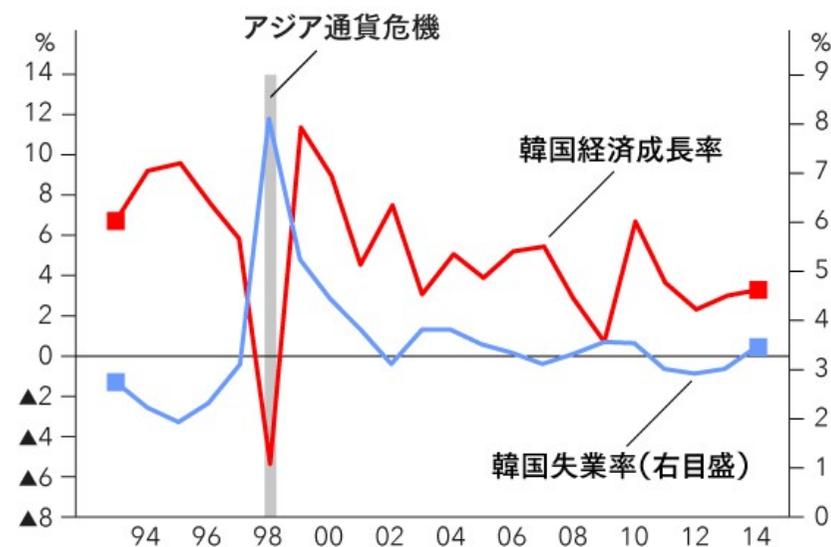
- 1961年以来の軍事政権が終わり、約30年ぶりに非軍事政権＝文民政権が成立

民主化成立
から現代まで



アジア通貨(IMF)危機

危機前後の韓国経済成長率と失業率



(出所) ユーロスタット

- 1995年には国民所得を大幅に上げ、翌年に念願のOECD(世界中の経済、社会福祉の向上を促進するための活動を行う国際機関)加盟を果たし、先進国の仲間入りを果たしたようにみえた
- しかし、相次ぐ企業倒産や金融機関の不良債権増大、タイ・バーツ危機に始まり、ヘッジファンドの投機的攻撃や短期債務の取り付けなど、内外のさまざまな要因が絡み合う中で韓国経済は危機をおかえた
- 危機のどん底の中で成立した金大中政権はIMF(金融危機に陥った国への支援機能をもつ国際金融機関)による財政再建、規制緩和、公共事業削減など構造改革(経済調整政策とも言う)に応ずることによってその融資を受けることにして、その危機を切り抜けた

ネティズンと政治

- 2002年の大統領選挙での盧武鉉(ノ・ムヒョン)候補の勝利は、新しい世代の台頭と価値観の変化を背景としていた
- 選挙当時不利な立場から候補者レースに乗り出した盧武鉉の拠り所となったのはネティズン(networkとcitizenの合成語)と呼ばれるインターネット世代の若い有権者たちであった
- 4度もの挑戦をするも敗れていた盧武鉉の“繰り返す敗北にもひるまずチャレンジする姿”が既存の政党政治にそっぽを向いていた若い有権者に新鮮な共感を呼び起こしたのだ
- 僅差で競り合う他の候補者との差を決定付けたのは**ノサモ**による市民への呼びかけであったとする分析もある。
ノサモ:「ノムヒョヌル・サランハヌン・モイム（朝鮮語：노무현을 사랑하는 모임）」
(盧武鉉を愛する会)の頭文字を取った略称
- 韓国はこの頃既にブロードバンド普及率が人口比で世界一のネット大国になっていたという背景がある



盧武鉉

盧武鉉政權

- 国民の安全確保、経済の活性化、国民生活の向上などの本来の政府の任務よりも歴代政権が残した既存体制と既得権の打破を目指した
 - 国民の参与（参加）により韓国の民主主義を完成させたという趣旨で“参与政府”と呼ばれ、政府がこれまでの民主化の担い手として期待できるような時代の実現がみこまれた
 - 委員会制度の活用によって市民運動団体の活動家や学者が大勢参加し、国の意思形成に直接影響を与えた
- 逆に市民運動の活力を奪ったため、市民の意見が反映されにくくなった



李明博(イ・ミョンバク)政権

- 2002-06年の間ソウル市長を務めていた李明博が2007年大統領に就任
- 人権、過去清算、南北和解といった問題解決を進め、「米韓同盟強化」「G20開催」「平昌五輪誘致成功」などの点で評価されている
- 一方で、権威的な政治運営や政府要職の私情が絡んだ人事が目立ち、政権の高飛車な政策運営に有効な手立てを見いだせずに行った
- BSE（狂牛病）の騒動が起きた際にアメリカの圧力に屈して牛肉の輸出再開を決定。これが市民の反発を浴び、歴史的な100万人参加の大規模デモへとつながった。

→ ろうそくデモ



朴槿恵(パク・クネ)政権

- 公共、労働、金融、教育の4代部門を中心に構造改革をすすめ、「基礎のしっかりした社会」づくりを目指そうとしていた
- しかし実質的には各分野で財閥・大企業に有利な規制緩和や民営化をすすめ、無分別な規制緩和によって国民の生活と安全を脅かしながら格差や亀裂をより深くしているとされる
- 一方で大統領選挙の過程で大統領直属で設置された情報機関にして秘密警察である国情院がTwitterなどを利用して世論操作をしたことが明らかになり、職員がスパイ罪で逮捕されるという事件が発覚し、朴槿恵大統領と国情院院長が謝罪



→ **公安統治の再来?** と非難されるように

結論

戦争や独裁が猛威を奮ったが度重なる民主運動の末に民主化を達成した

時代が逆流している

この悲劇を越えて新しい再生の道をたどれるだろうか？
という正念場の時代を迎えている